

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ① グリーン・イノベーション・農林水産業分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
千年の草原の継承と創造的活用総合特区 (阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町)	3.8	3.9 進捗度 ・草原管理面積 98% ・野焼き再開牧野数 200% ・あか牛肉料理認定数 66% 等	3.4 財政支援等 ・生物多様性保全推進交付金事業 地域独自の取組 ・ASO環境共生基金事業 ・入湯税収観光活用事業 等	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料価格高騰の下で放牧の対するニーズが高まっていると推測され、放牧による飼料費削減効果を明示し、牧野利用拡大につなげることができればと思う。 ・コロナ禍収束により観光需要の回復が見込まれるが、その時に質の高い、当初計画していた草原ツーリズムを実現・提供できるかどうか問われることになるだろう。 ・コロナ禍の影響もあり、目標を達成する指標が少なく、進捗は順調とは言えないが、草原の維持・再生は生物多様性の面からも重要であり、継続的な取組を期待する。 ・多様な関わりをもつ主体や組織の体制強化が図られている点は注目される。 ・野焼き再開をした牧野組合が毎年あることは、評価できる。 ・牛馬の放牧頭数は傾向をつかみにくく、令和3年度の減少や、それ以降の動向を分析する必要がある。 ・あか牛肉料理認定店数については、単に店舗数を確認するだけでなく、注文の状況、店舗経営への影響、観光との関連などを分析したい。 ・地震災害やコロナ禍の影響の中で、複数の事業を組み合わせ、継続して文化的景観としての阿蘇の草原の維持管理と観光促進に取り組まれていることが評価される。 ・阿蘇ならではの関係人口づくりの戦略が重要。ふるさと納税などで既につながっている阿蘇との地縁・ゆかりのある方々に、ビジネスや子育てをきっかけに野焼きに関わってもらう仕掛け、地元在住の外国人による野焼きボランティア育成研修との次の新たな関係構築など、新たなアイデアを模索しつつ、阿蘇草原に関わる様々な組織とのつながり構築を、今後も継続的に進めていただきたい。